

2023. 6. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」

○日時：7月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度

《6月のおはなし会で使った本》

『だれといっしょにいこうかな?』 得田之久/ぶん 童心社 2016.9

『おひさまにここにこ』 まどみちお/脚本 童心社 2003.4

『はみがきれいっしやしゅっぱつしんこう!』 くぼまちこ/著 アリス館 2015.1

『どうぶつたいじゅうそくてい』 聞かせ屋。けいたろう/文 アリス館 2014.11

★「第2回新刊児童書閲覧会」

○日時：令和5年7月19日（水）～7月23日（日）9：00～17：00

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょじつ 3F）

○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方

○定員：一人1時間、各時間帯10名程度（要申込み）

○申込方法：来館、FAXまたは電子メール（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

○申込方法：別紙参加申込書によりFAX、電子メール、又は持参での申込（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

○申込締切：令和5年6月15日（水）17時（定員になり次第、締め切り）

★第1回学校図書館セミナー

○日時：令和5年8月30日（水）14：00～16：00（受付13：30～）

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○講師：野口 武悟氏（専修大学 教授）

○内容：【講義】「学校図書館における読書バリアフリーの推進に向けて」

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、教育委員会指導主事等

○定員：会場90名（要申込み、先着順）

○申込方法：別紙参加申込書によりFAX、電子メール、又は持参での申込（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

○申込締切：令和5年8月18日（金）17時（定員になり次第、締め切り）

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本-3, 4歳から＞

『しめしめ』 丸山誠司/作 光村教育図書 2023.4 ¥1400

おいしいみつをすいにきたハチ。そのハチをみつけてたべようとするカエル。そのカエルをたべようとするだいや。そのだいやをたべようとするハゲタカ。そのハゲタカをたべようとするティラノサウルス。そのティラノサウルスをたべようとするのは…？食物連鎖は思いがけない展開へ。見開きいっぱい広がるダイナミックな絵と、「しめしめ」のくり返し楽しいユーモア絵本。

＜絵本-5, 6歳から＞

『どなたでもどうぞ!』 サム・シャーランド/さく ふくもとゆきこ/やく BL出版 2023.3 ¥1600

バレンタインさんのホテルには、たくさんの人がやってくる。ある日トラのエメットをとめたことで、ほかのお客さんたちは「トラがいるなんて」と出て行ってしまった。エメットのおさそいで色々な動物がとまりにきてくれたが、階段が高すぎたり、ドアが小さすぎたり…。どんなお客さんでも満足するホテルにしよう！読みながら自然とユニバーサルデザインの視点に触れられる絵本。

＜絵本-小学校低学年から＞

『それよりこわい』 村中李衣/作 近藤薫美子/作 佼成出版社 2023.5 ¥1400

「いっかげんにしなさい！」っていう先生の口癖よりこわいのは、大きな口をあけた犬。それよりこわいのは病院の屋上、それよりこわいのはつりばし…。より「こわいもの」を言い合う二人の男の子。どんどん想像がふくらんで…。でもそのこわいものから、安心させてくれた「あったかいもの」とは？。こわいけれど、次のページをめくるのが楽しみな絵本。作者は山口県出身。

＜絵本-小学校中学年から＞

『シッカとマルガレータ』 ウルフ・スタルク/さく スティーナ・ヴィルセン/え きただいえりこ/やく green seed books 2023.5 ¥1700

海の向こうの東側の国で両親と暮らしていた女の子シッカ。戦争が始まり戦争から逃れるために、船に乗って西側の国へ。シッカを迎えたのは同じ年頃のマルガレータがいる家。家族と離れ、言葉もわからず頑なな態度のシッカについて意地悪をしてしまうマルガレータ。しかしそれぞれの不安や怒りを見せ合う中でいつしか二人に友情が芽生え…。戦争や難民の過酷さを伝える絵本。

＜外国語絵本＞

『Hey Buddy, Which One? 英語版』 Yasue Rie/文 Furiya Nana 絵/ Robert Campbell/英訳 福音館書店 2023.4 ¥1400

目玉焼きと卵焼き、ぶらんこと滑り台、どっちが好き？ 安江リエと降矢奈々による絵本『ねえ どっちが好き？』の英語版。小学校の外国語活動での活用を目的とした「英語でたのしみ 福音館の絵本」シリーズ。英訳したロバート キャンベルによる朗読音源がダウンロード可能。他に『Bathtub in the Woods』（西村敏雄/作）など全5冊が同時刊行。

<読み物ー小学校低学年から>

『こんにちは、アンリくん』 エディット・ヴァシュロン/文 ヴァージニア・カール/文・絵 松井るり子/訳 徳間書店 2023.4 ¥1800

フランスに住む男の子アンリ君。アンリ君には家族が大勢います。猫のミシェル君にも家族が大勢います。アンリ君とミシェル君は、魚屋さんで同じ大きな魚を買おうとして…。にらみ合っていたはずがアンリ君の提案で、23人と39匹が一緒になって楽しいひと時。いつのまにかアンリ君とミシェル君は大の仲良しに。その他「かさ」「なんようび」等ほのぼのとした物語3編を収録。

<読み物ー小学校中学年から>

『ひとりかもしれない』 岩瀬成子/作 フレーベル館 2023.5 ¥1400

母と新しい父となる幸介さんとの生活が始まった小学4年生の女の子、貝。実父を思い出したり、転校したくないことを言い出せなかったり、ほのかに思いを寄せる幼馴染を好きだという友達に胸がざわざわしたり…。子供から大人に成長する中で感じる複雑な心境や実父の思い出と継父の愛情との葛藤が、少女の視点で描かれた物語。作者は山口県在住。

<読み物ー小学校高学年から>

『ドアのむこうの国へのパスポート』 トンケ・ドラフト リンデルト・クロムウツ/作 リンデ・ファース/絵 西村由美/訳 岩波書店 2023.4 ¥1800

担任のトム先生の知り合いの作家にクラスの代表として質問しに行くことになったラウンゾー。その作家の部屋には、不思議なドアがある。そのドアに入るために必要なパスポートやビザを発行してもらおうと、申請書の作成に取り組む子供達。課題に取り組む中で、自分や家族を知り、友達と協力するを経験していく物語。2人のオランダ児童文学作者の共著。

<読み物ー中学生から>

『鳥』 小手鞠るい/作 小学館 2023.5 ¥1400

千歌はアメリカで母と老犬ポアロと暮らす中2の女の子。小鳥が大好きで、日本で暮らすステップシスターの絵里奈とメール文通をしている。夏休みに動物の保護施設「サンクチュアリ」でボランティアをした千歌が、夏の終わりにポアロを預けて、母と日本から来た絵里奈と旅行を楽しんでいる最中、母の電話が鳴り…。家族の在り方、命の尊さについて考えるきっかけとなる物語。

『雨にシュクラン』 こまつあやこ/著 講談社 2023.4 ¥1400

猛勉強をして憧れの高校に合格した真歩だが、入学早々、父の病氣療養のために引越すことに。往復5時間の電車通学にも心も体も限界になり、6月末日でやめてしまう。退学初日、父と二人きりの家に耐えられず、何となく入った図書館で宅配ボランティアを始め、本を届けに行った家で、アラビア書道の存在を知り…。異文化理解の本質を伝える物語。表紙のアラビア文字も美しい。

<ノンフィクションー小学校低学年から>

『おおじしん さがして、はして、まもるんだ』 清永奈穂/文・監修 石塚ワカメ/絵 岩崎書店 2023.4 ¥1300

突然起こる地震。揺れ始めの8秒でうさぎ（素早く逃げる場所を探す）・ねずみ（安全な場所に潜り込む）・かめ（体を小さく丸めて手足を引っ込める）のポーズになるのが大事。子どもが自分で地震から身を守る方法について、覚えやすい合言葉と動作を示して分かりやすく解説する。巻末には大人向けに、地震から「命」を守るために知っておきたいポイントについても紹介する。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『つながるいのち』 松本紀生/著 教育出版 2023.3 ¥1900

海で育ったサケは川をさかのぼり卵を産む。クマやワシ、カモメはサケを食べる。動物たちのフンは森の植物の栄養となり、森の植物はまた動物の食べ物や住みかとなる。アラスカの自然の中で、川や海、森、動物たちがつながっていく様子を素朴な言葉と迫力ある写真で紹介する。自然や動物が互いに恩恵を受けつながる中で、人間ができることについて考えるきっかけとなる写真絵本。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『命をつなぐセラピードッグ物語』 大木トオル/著 講談社 2023.3 ¥1500

捨て犬から、日本初のセラピードッグとなったチロリ。東日本大震災で被災地の人たちの心のケアに尽くしたピース。福島で救出された被災犬の幸と福。飼い主を失った犬たちがセラピードッグとして訓練され活躍するまでを紹介する。筆者は東洋人ブレースィンガーとして世界的に活躍する一方、動物愛護家として活動し、セラピードッグ育成、動物愛護管理法の改正等に貢献。

<ノンフィクションー中学生から>

『リンボウ先生なるほど古典はおもしろい!』 林望/著 理論社 2023.1 ¥1300

国文学者で名エッセイストのリンボウ先生が、日本文学の根底である「和歌」に焦点を当て、「古典」のおもしろさを紹介。それぞれの古典作品の著者や登場人物が和歌に込めた思いからは、今と変わらない人間の感情が読み取れる。教科書にも掲載がある7作品を、人間の感情の動きに注目して、解説している点もユニーク。感情を込めて「和歌」を音読しなおしてみたい1冊。

<研究書>

『絵本のまにまに』 長野ヒデ子/著 石風社 2023.3 ¥1800

絵本作家長野ヒデ子のエッセイ集第2作。『母のひろば』、朝日新聞「作家の口福」、「子どもの文化」などに掲載された文章から、ラジオ番組や講演まで、絵本や紙芝居にまつわることのみならず、暮らしのあれこれを収録。瀬戸内の小さな村で生まれ育った著者が、たくさんの出会いを繰り返しながら今に至る様子が軽快な口調で綴られている。巻末には紙芝居出版一覧あり。

『人生はチャンバラ劇』 飯野和好/著 パインターナショナル 2023.4 ¥1800

絵本作家飯野和好の自叙伝であり、自選作品集。2006年から住んでいる鎌倉のアトリエ内部の写真、子どもの頃の作品、絵本や挿し絵のためのスケッチなど、貴重な図版や写真を多数掲載。月刊誌『子どもの友』の連載エッセイの再録や、書き下ろしの自叙伝からは、著者の順風とはいえない半生や、意外な趣味などを知ることができる。巻末におもな著作一覧あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

